

# 認知症かな？と思ったら早期発見に 脳の画像検査が役立ちます

- ◆ 認知症は脳の病気です。
- ◆ 認知症には、さまざまな病気があります。
- ◆ **早期発見し、病気の原因を知ること**が大切です。



- 治る認知症もあるので、早く見つけましょう。
- 薬で進行を遅らせることができる認知症もあります。
- どんな病気が原因で認知症になったのかを早期にかつ正確に診断することで、病気別の治療、ケア、家族を含めた生活支援を検討することができます。

## 【認知症の代表的な病気と症状】

- 新しい事が覚えられない
- 場所や時間が分からない
- 怒りっぽくなる

アルツハイマー型認知症

- 同じ言葉や行動を繰り返す
- 社会的ルールを無視する
- 自分勝手な発言や行動が多い

前頭側頭型認知症

## 認知症

(代表的な症状)

レビー小体型認知症

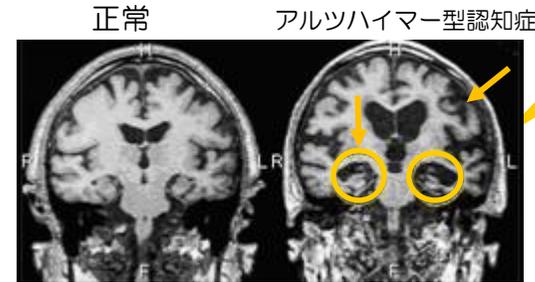
- はっきりした幻視
- 動作が遅くなる
- 日によって症状の変動が激しい

血管性認知症

- 歩行や発語の障害
- 元気がなくなる
- 抑うつ障害
- その場にそぐわない泣きや笑い

## 脳の形をみる画像検査 (MRI・CT)

- ◆ MRIやCT検査では、脳の断面像を撮影して脳の形(形態)を調べます。

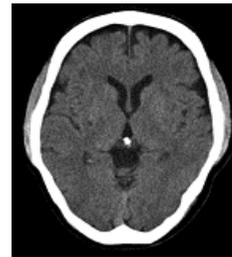


脳と海馬の委縮(いしゅく)が分かります。

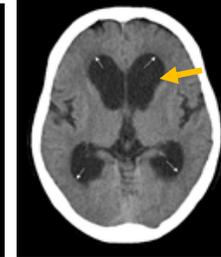


- ◆ 認知症と似ている症状がみられ、認知症かな？と思っても適切な治療によって改善する病気もあります。

正常



正常圧水頭症

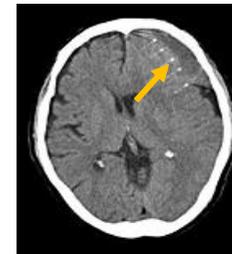


【代表的な病気】

正常圧水頭症

せいしょうあつすいとうしょう

髄液という液体が脳の中心にある脳室にたまり脳を圧迫して症状がでます。



慢性硬膜下血腫

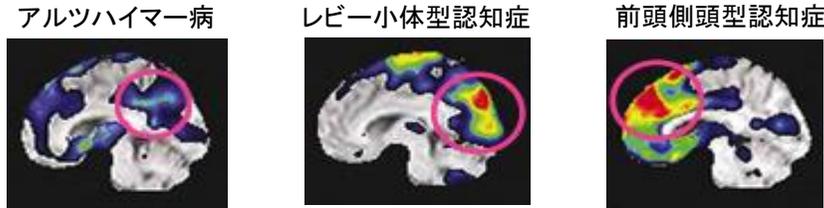
まんせいこうまくかけっしゅ

頭にけがをした後、しばらくして血の固まりができ脳を圧迫して症状がでます。



## 脳の機能をみる検査 ①脳血流シンチ

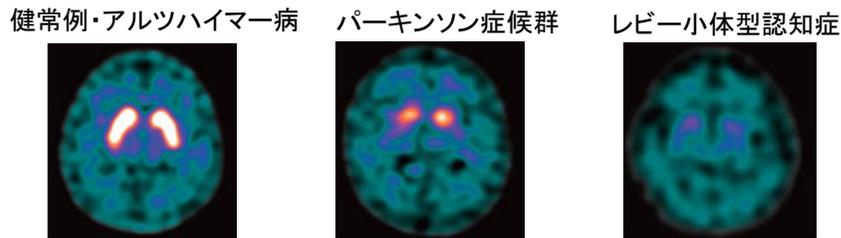
- ◆ 脳血流シンチは脳内の血流の程度を調べます。
- ◆ 認知症の原因となる病気によって、脳の血流が少なくなっている場所に違いがあります。



脳の血流が低下している場所と低下の程度が色で示されます。

## 脳の機能をみる検査 ②DAT (ダット) スキャン

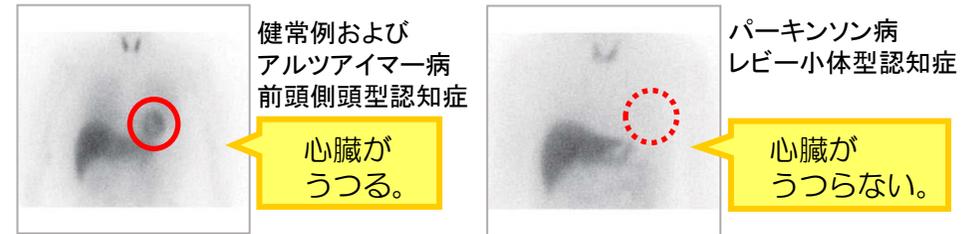
- ◆ レビー小体型認知症の症状は、アルツハイマー型認知症やパーキンソン病の症状と似ている特徴があり、症状からは鑑別が難しいと言われています。
- ◆ しかし、病気ごとに脳内のドパミン神経の脱落の程度に違いがみられます。DATスキャンでは、その違いを画像により目で確認できるので鑑別診断に役立ちます。



脳内のドパミン神経が色で示され、形に違いが見られます。

## MIBGシンチ

- ◆ MIBGシンチは、心臓を支配している交感神経機能を調べる検査です。
- ◆ レビー小体型認知症と前頭側頭型認知症は、手足のふるえなど似た症状がみられることがあります。
- ◆ レビー小体型認知症においては心臓の交感神経に異常がみられる特徴があり、MIBGシンチによって鑑別することができます。



	検査名	特徴	検査時間	注意事項
形をみる	MR I	磁石を使って撮影します。	約20分	ペースメーカーの有無
	CT	エックス線を使って撮影します。	約10分	—
機能をみる	核医学検査			
	脳血流シンチ	放射性医薬品を静脈に注射すると、薬が体の特定の場所に集まり、それをカメラで撮影します。	約45分	検査中は、アイマスクをして安静が必要
	DATスキャン		午前中に注射し、約4時間後に30分間撮影します	抗うつ剤などの休薬が必要
MIBGシンチ	午前中に注射し15分後と約3時間後に7分間撮影します		抗うつ剤などの休薬が必要	

上記の検査はすべて保険適応となります。

